時代を開き 創立140周年

松本深志高校「自治の精神」受け継ぐ

松本深志高校（松本市蟻ケ崎3）が本年度、創立140周年を迎え、15日、記念式典と祝賀会を開く。1876（明治9）年、「第十七番中学変則学校」として開校後、幾多の変遷を経て、1899（同32）年「長野県松本中学校」に改称。その後、戦後の学制改革により1948（昭和23）年、長野県松本深志高等学校となった。県中等教育界の先達として時代を切り開き、卒業生は約3万5000人。県内で最も古い歴史を誇り、伝統の「自治の精神」は、今も後輩へと受け継がれている。

校歌

松原威雄 作詞
岡野貞一 作曲

一、蒼溟遠き波の涯
黒潮たぎる絶東に
たてり大和の秋津洲
光栄の歴史は三千年
そのうるはしき名を負へる
蜻蛉男児に栄えあれ

二、時の流れは強うして
この世の旅は長けれど
自治を生命の若人は
強き「力」に生くるかな
山河秀でし此の郷に
礎固し我が母校

三、暁こめて鳴り出でし
時代の鐘を身にしめて
世の先駆者の名に恥ぢず
心を磨き身を鍛へ
移らふ星を数べて
守るも久し深志城

四、朝に仰ぐ槍嶽に
深き真理を探りつゝ
夕嶺摩の野を行けば
胸に充ちくる想華あり
嗚呼学術の香に集ふ
契りも深き友九百

五、古城空しく苔古りて
濁世の波は高けれど
清き心のひとすぢに
志あるますらをは
自治の大旗 翻へし
前途遥かに望む哉

ごあいさつ

深志同窓会長・創立140周年記念事業実行委員長 井上 保

本年、創立140周年を迎えるにあたり、10月15日の記念式典に始まり、多くの記念事業を行います。これも先輩各位、また、同窓生、PTAの皆さん、学校側の暖かいご支援のもとに行われることにまずもって感謝を申し上げます。

同窓会ではこの創立140周年という節目の年に、改めて先輩の築いたこれまでの歴史と伝統を検証し、10年後の150周年に向けて継承していかねばと気持ちを新たにしております。

歴史、伝統を築くということは、その時、その時代に立ち合い、関わった者たちが「自治」の精神のもとに進化していくものだと思います。

若い同窓生諸君、特に現役の深志高校の生徒諸君は、創立140周年に立ち合い、巡り合わせた自分の立場を想う時、次へ繋いでいく使命を感じて欲しいと思います。

松本深志高等学校 学校長 小口 俊幸

創立140年の記念すべき年を迎え、ここに盛大に記念式典を挙行できますことは、学校としてこの上ない慶びであります。ここまで本校を支えてくださいました地域の皆さまを始め、関係各位に衷心より感謝を申し上げます。

本校は、長い歴史の中にあって多くの有為な人材を輩出してまいりましたが、卒業された同窓の皆さまが国の内外を問わず各界各方面で中核となって活躍され、社会の発展に大きく貢献されておりますことは誠に心強い限りであり、今深志で学んでいる生徒たちにとりましても大きな励みとなるものであります。

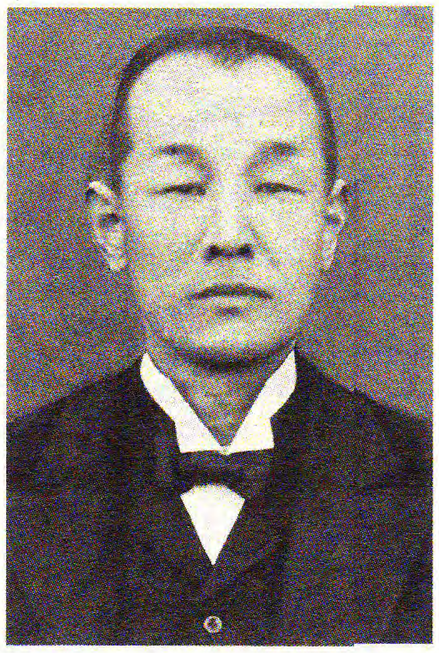
現役の生徒たちには、よき伝統の上に深志での学びを通じて、自分の持ち味をいかに世の中のために発揮するかを問いながら未来に踏み出していってくれることを期待しております。今後とも深志が誇れる生徒の育成に職員一同全力で取り組む所存でおりますので、皆さまには変わらぬご指導とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

祝 長野県松本深志高等学校 創立140周年

140年続く「自治の精神」築いた初代校長

小林有也の思い

深志高校の特色であり、受け継がれてきた伝統として今も息づく「自治の精神」。その基礎を築いたのが、旧制松本中学校の初代校長を約30年にわたって務めた小林有也（うなり）（1855～1914年）だ。彼の生涯や人柄を紹介しながら、年表や写真資料などで、140年の歴史を振り返る。



教育者としてはもちろん、松本城の修理・保存に尽くした功績も大きい小林有也

文明開化の中で学びに励む

有也は1855（安政2）年、和泉国伯太藩（現大阪府）の重臣の家に生まれた。前年には日米和親条約が結ばれ、200年以上に及んだ鎖国政策が終結。激動の時代を迎えていた。

1877（明治10）年に帝国大学（現東京大学）が設立されると、理学部仏語物理学科に進んだ。明治初期の進取と文明開化の風潮の中で学びに励んだことは、のちの教育者としての姿勢にも影響を与えたことだろう。

明治13年7月、わが国初の理学士19人のうちの1人として卒業。翌年から農商務省の工務局に勤め、工業の発展に力を尽くす。

明治17年7月、長野県中学校教則取調委員となり、同年9月には長野に誕生した県中学校の校長と教諭を兼ねた。中等教育を担う人材を求めていた県が、29歳の有也を抜てきした形だった。

同19年9月、県尋常中学校が松本に置かれると、校長として松本に着任。以降、1914（大正3）年に在職のまま亡くなるまで、教育の第一線に立ち続けた。

全校のアイドル　自由謳歌「学校犬」クロ

深志の長い歴史の中でもひときわ異彩を放つ存在が、「学校犬」クロだ。1972（昭和47）年に死ぬまで12年ほどの間、自由と自治の気風を謳歌（おうか）するように校内を闊歩（かっぽ）し、多くの人に愛された。

1960年頃に校内に迷い込んで住み着いていたクロは、61年のとんぼ祭の仮装行列に西郷隆盛の愛犬役で登場し、1等賞に貢献。おだやかで賢く、一躍全校のアイドルとなった。

学校行事への参加はもちろん、生徒と一緒に授業を受けたり、宿直の夜回りに付き添ったり。いつしか教職員名簿に載り、職員会議にも出席。病気をしたときは全校から多くのカンパが集まった。

72年11月30日、老衰と悪性腫瘍のため死亡。学校葬が営まれ、最後は多くの人が校歌で見送った。

当時の国語科教諭でクロの面倒をみていた藤岡改造さんが、98年に出版した「職員会議に出た犬・クロ」（郷土出版社）はベストセラーに。2003年、それをもとに妻夫木聡さん主演で映画「さよなら、クロ」が製作され、クロは改めて脚光を浴びることになった。

1961（昭和36）年のとんぼ祭で、仮装行列に登場したクロ

授業を受けるクロ。外から教室の戸をひっかき、入れるよう催促することもあった

深志の日常風景にすっかり溶け込んだ、まさに「学校犬」だった

松本深志高等学校 140年の歩み

明治9年（1876）
- 7月　本町の開智学校内に「第17番中学変則学校」誕生（筑摩県下最初の中学校）

10年
- 7月　長野県師範学校松本支校（地蔵清水）に校舎移転
- 8月　「第18番中学校（変則中学校）」となる

12年
- 5月　第18番中学校（正則中学校）となる

13年
- 1月　「公立松本中学校」と改称（東筑、南北安曇の3郡による組合立）

16年
- 12月　「東筑摩中学校」と改称

17年
- 9月　「長野県中学校松本支校」となる（長野の本校に小林有也校長着任）

18年
- 11月　松本支校の新校舎落成（松本城二の丸）

19年
- 9月　長野県中学校本・支校すべてが松本に移転し、「長野県尋常中学校」と改称

20年
- 生徒活動の自治機関「相談会」設立

21年
- 1月　南深志町の大火で校舎焼失

22年
- 5月　新校舎落成（松本城二の丸）

26年
- 4月　長野、上田、飯田に支校設立

29年
- 自治寄宿舎「良友会」設立（白板）

30年
- 6月　自治寄宿舎「信濃舎（尚志舎の前身）」設立（大名町）
- 7月　校風発揚の自治機関「矯風会」設立

31年
- 蜻蛉の校章を正式決定

32年
- 4月　「長野県松本中学校」と改称（長野支校は独立、上田支校はその支校に）

37年
- 4月　「長野県立松本中学校」と改称
- 10月　「尚志舎」の寄宿舎（蟻ケ崎）できる

大正3年（1914）
- この年、自治寄宿舎「真正舎」設立（源池）

9年
- 6月　小林有也校長逝去、源池龍興寺に埋葬

11年
- 4月　「長野県松本中学校」と改称
- 現行の校歌制定

13年
- 6月　「私立夜間松本中等学校」開校（大正15年から校長は松本中学校長が兼務、松中と校舎共用）

昭和2年（1927）
- 4月　私立夜間松本中等学校は「市立松本夜間中等学校」と改称

10年
- 7月　松本市蟻ケ崎の新校舎（現校舎）に移転

祝　長野県松本深志高等学校　創立140周年

生徒の人格と自治尊重

有也は小柄で、どちらかといえば風采も上がらず、生徒と直接言葉を交わすことも少なかったが、行動を通して感化を与える教育者だったようだ。

生徒からあいさつされると、生徒以上に深く頭を下げて返した。在職中に自分の胸像が建つと、そこを避けて裏門から出入りした。質素な身なりのため、学校を訪れた新聞記者が用務員と間違えた―など、礼節を重んじる実直な人柄をうかがわせるエピソードも、多く伝わっている。

そんな人柄が生徒からの信頼を集め、深い心の結びつきが自然に醸成されていったのだろう。

自治についても声高に叫ぶことこそなかったものの、生徒の人格を認め、自治活動を尊重した。時代は日清・日露両戦争から第1次世界大戦に向かっていた。教育体制も国家主義的な価値観に染まりつつあった中、異例と言える方針だった。

現在の生徒会のような議決機関「相談会」や、生徒たち自身が自らの風紀を律する「矯風会」、「尚志舎」「良友会」「披雲会」といった学校が管理する寮とは別の自治寄宿舎―など、多くの自治団体の設立と活動を承認。これらが独自の校風を育む土壌となっていった。

1914（大正3）年6月28日、松本城天守となりの運動場で行われた、有也の学校葬。会葬者は3000人に上った

今も生徒たちが行う命日の墓参

死の淵でなお残した3カ条

大正3年6月、有也は慢性腎炎から尿毒症を併発し、病の床に伏した。病状は日々、校内の掲示板で詳しく伝えられたというから、生徒たちの心配ぶりがうかがえる。

同月9日に死去。死に臨み、生徒たちに次の3カ条を残した。

一、諸子はあくまで精神的に勉強せよ

二、しこうして、大に身体の強健をはかれ

三、決して現代の悪風潮に染み、堕落するがごとき事あるべからず

翌10日、講堂での全校集会でこの「遺訓」が伝えられた。死の淵でなお生徒を思った有也をしのび、嗚咽（おえつ）の声が響いたという。

命日には今も応援団管理委員会を中心とする生徒たちが、前庭の胸像の清掃と、龍興寺（松本市中央3）にある墓参りを行っている。

深志の前庭にたたずむ有也の胸像

校章 トンボが象徴に

「高」の字にトンボがとまった校章。トンボが深志の象徴とされるゆえんだ。

由来は定かではないが、古事記や日本書紀で日本を「秋津島／洲（あきつしま）」とした記述から、トンボの古名である「蜻蛉（あきつ）」とかけて、「日本を背負って立つ」との意味が込められているとされる。

トンボを図案化した校章は、校歌制定前の1890（明治23）年には、すでに使われていたようだ。正式に採用されたのは明治31年、図画科の望月俊稜教諭がこのデザインを用い、記章をつくったことによる。

現行の校章は、松本深志高校が発足した翌年の1949（昭和24）年に制定された。

また、星状六角形の雪の結晶をかたどった図案は、松本夜間中学校の校章。このデザインにちなみ、戦後に始まる文化祭は「六華祭」と呼ばれることになった。

松本中学校時代の校章

現在も使われる深志高校の校章

雪の結晶をかたどった松本夜間中学校の校章

年表

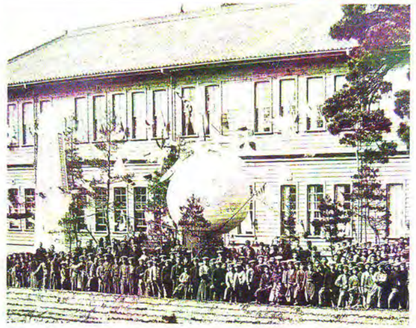
- 11年 7月 柔道部が講道館主催第2回全国大会で優勝
- 18年 4月 市立松本夜間中等学校は「松本市立夜間中学校」となる
- 19年 10月 松本医学専門学校（現信大医学部）に校舎の一部を貸す
- 21年 4月 松本市立夜間中学校は「長野県松本市立高等学校第三部」となる
- 22年 7月 松本医専が旧歩兵第五十連隊跡（現信大）へ移転
- 23年 8月 野球部が甲子園大会出場
- 4月 「長野県松本中学校」が74年の歴史を閉じ「長野県松本深志高等学校」発足
- 24年 5月 長野県松本市立高等学校第三部は「長野県松本深志高等学校第三部」と改称
- 10月 深志開校記念祭挙行、翌年から名称を「とんぼ祭」に
- 25年 4月 女生徒が初入学
- 26年 8月 新校章決定
- 29年 3月 生徒会「校友」創刊号発行
- 9月 天守閣旧松中から赤門を登竜門（生徒通用門）として移転設置
- 39年 4月 長野県松本深志高等学校第三部は「長野県松本深志高等学校定時制」と改称
- 42年 6月 「同窓会館」完成
- 48年 8月 2学年が西穂高岳独標付近で被雷し、11名死亡、13名重軽傷
- 62～63年 3月 松本筑摩高等学校新設に伴い定時制課程廃止
- 63年 第一棟大規模改修工事
- 平成6年（1994） 8月 空手道部女子個人形で全国総体優勝（エジプトの世界空手道選手権でも優勝）
- 9年 12月 初の女性生徒会長選出
- 12年 7月 とんぼ祭7月実施
- 11月 校舎竣工記念式典挙行（第一棟改修、第二棟、三棟改築ほか）
- 14年 4月 完全週5日制対応として第1回尚学塾開塾
- 11月 卒業生による尚学塾記念講演始まる
- 15年 12月 管理棟普通教室棟（第一棟）と講堂が国の登録有形文化財となる
- 17年 5月 地域への公開授業開催
- 18年 8月 1学年全員による企業見学実施
- 26年 8月 「深志教育会館」竣工
- 6月 2学年全員によるキャリア研修旅行実施

祝　長野県松本深志高等学校　創立140周年

写真で見る 深志高140年

深志140年の歴史の中で、その時々の時代を写した膨大な量の写真が資料として残されている。明治から平成にかけての激動の時代に、「自治」の大旗を掲げた若者や彼らを育んだ学びやを写真を通して振り返る。

1 1885（明治18）年に当時の東筑摩郡と篤志者の寄付で松本城内に完成した「長野県中学校松本支校」の新校舎



2 1899（明治32）年の「松本中学校」の新校舎落成式。中央の大地球儀にトンボを止まらせた

3 戦時下の1944（昭和19）年、生徒の勤労動員が始まる。5年生が愛知県の軍需工場、3、4年生が芝浦タービン松本工場に動員され、1、2年生も授業の合間に飛行場の整備や農作業をした

4 校舎の窓枠に立つ生徒（1946年ごろ）

5 1947（昭和22）年、信越地区大会決勝で松本市立中学（現・松本美須々ケ丘高）を破って甲子園出場を果たした野球部ナイン

6 1948（昭和23）年11月に2代校長に就任した岡田甫さん。現在まで続く深志の伝統のいくつかは岡田校長の在任中に生まれた

7 松本中学から松本深志高校に変わる1948（昭和23）年ごろ。正門に集まった生徒

8 1950（昭和25）年の第3回とんぼ祭で初の喫茶店を開いた女子生徒。深志に初めて女子生徒が入学したのはこの前年

9 松本深志高校定時制の文化祭「六華祭」で行われた運動会風景（1956年）

10 1960（昭和35）年、日米安保条約を巡る政治的混乱に対して、平和と民主主義の擁護を掲げた生徒による「市中行進」

13 とんぼ祭の最後を飾るファイヤーストーム。燃えさかる火を囲み、3年生は過ぎゆく高校生活の熱い思いを叫んだ

14 初の女子生徒会長が誕生したことを伝える深志高校新聞（1995年）

15 解体された第二棟校舎（1998年）

11 とんぼ祭で男女が手をつないでフォークダンスを踊る（1966年）

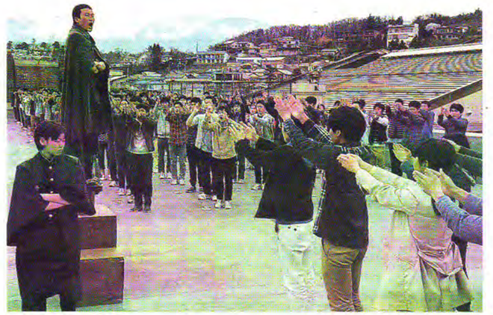
12 とんぼ祭の名物「灯ろう」。出身中学ごとの組織「郷友会」が製作する（1989年度の卒業アルバムより）

16 解体された第二棟校舎の木を使ってバイオリンとビオラを製作する井筒信一さん。机の上の白木が削り上げた胴（2000年）

17 2002年度から始まった学校完全週5日制に伴い、同窓会、学校、PTAが一丸となって立ち上げた「尚学塾」。各分野で活躍する卒業生が母校の教壇に立ち、さまざまな講演を行っている

18 毎年、風薫るころに屋上に掲げられるこいのぼり。応援団管理委員会が製作している（2003年）

19 創立130周年記念事業の柱として2006年にテニスコート跡地に完成した深志教育会館



20 伝統の新入生応援練習。応援団管理委員会の厳しい指導を受け「蜻蛉（あきつ）男子、女子」の第一歩を踏み出す（2016年）

祝 長野県松本深志高等学校 創立140周年

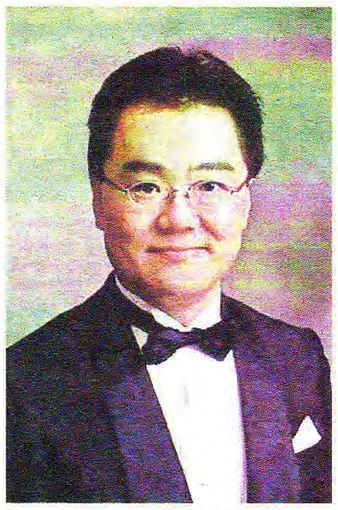
祝 長野県松本深志高等学校 創立140周年

本番に向け練習に励む志音会オーケストラと合唱団。総勢約180人の卒業生と現役生徒が1つのステージを創り上げる

23日 志音会演奏会

キッセイ文化ホール

松本深志高校音楽部の卒業生と現役部員ら約900人でつくる「志音会」は23日、創立140周年記念演奏会を松本市水汲のキッセイ文化ホール（県松本文化会館）で開く。記念事業のメインイベントで、吹奏楽部のOB、生徒らも加わり、10～80代の総勢約180人がチャイコフスキーの「交響曲第5番ホ短調作品64」とハイドンのオラトリオ「天地創造」（抜粋）に挑む。



ソリストの太田さん（バリトン、31回卒）

たぐちさん（アルト、39回卒）

指揮を務める北原さん

指揮は、国内外で活躍し、現在、宮内庁式部職楽部指揮者を務める武蔵野音楽大教授の北原幸男さん（59、埼玉県）。「プロもアマチュアも心を一つにプロフェッショナルな演奏を届けたい。一生に一度の素晴らしいコンサートになれば」とタクトに力を込める。

合唱は約3年前から、オーケストラは1年半前から練習を開始し、東京と松本の2会場で月1回集まり、準備してきた。

アルトでソリストを務める卒業生の声楽家たぐちたみさん（48、東京）は「母校の140周年に、現役生徒や先輩らと一緒の記念舞台に立てるのは光栄。年代を超えた深志生の熱い思いを音楽で伝えたい」。

同じくソリストで卒業生のバリトン歌手、太田直樹さん（56、同）は「作品はレベルが高く難曲。音大の付属高でもないのにこの曲が演奏できるのは、深志だからこそ。気持ちを1つに最高の歌と演奏を披露したい」と意気込む。

音楽部の部長でテナーの花岡大地さん（2年）は「歌詞もドイツ語で発音の仕方から勉強した。難曲だが、とてもいい曲。多くの先輩方と一緒に140周年をお祝いし、心に残る演奏会にしたい」。

当日は午後2時開演。2000円。チケットの取り置きサービスもある。志音会・杉山会長☎090・1030・0874、駒村さん☎72・5708

140周年記念事業

講演会（終了）

「輝く女性たちが語る」

1日　松本深志高校講堂

元川悦子さん（38回卒）が「サッカーライターという生き方」をテーマに講演。テレビアナウンサーの野尻英恵さん（61回卒）が司会を務め、元川さんと対談も行った。

母校の思い出話を語る元川さん（右）と野尻さん

美術展

松本深志高校創立140周年記念美術展

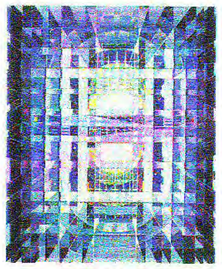
「松中・深志　師弟が駆け抜けた明治・大正・昭和　近代美術の幕開け」

13～16日　午前9時～午後5時（最終日は4時）
松本市美術館市民ギャラリーA・B
同時開催：在校生作品展、歴代とんぼ祭ポスター展（多目的ホール）【入場無料】

日本画家、武井真澄をはじめ、明治～昭和期に旧制松本中学、深志高校に在籍した美術教師と教え子たちの作品を公開。洋画、彫刻、工芸など時代を超えて集めた作品約60点。松本平の美術の歴史をひもとく。

「槍ヶ嶽」
武井真澄（1875～1957年）
松本深志高等学校蔵

「少女像」
上條俊介
（1899～1980年）
松本深志高等学校蔵



「89　電動磁場図」
大貫悌二（1911～89年）
松本市美術館蔵

チャリティーゴルフコンペ

14日　穂高カントリークラブ

創立140周年記念式典、祝賀会

15日　午前11時～式典：松本深志高校大体育館
正午～祝賀会：講堂、小体育館

「松本中学校開校式繁栄之図」

資料展

写真・資料でたどる「松中・深志140年の歩み」

15、16日　午前9時～午後5時、深志教育会館
同窓会が所蔵する貴重な歴史資料約200点を展示。【入場無料】

創立140周年記念酒販売

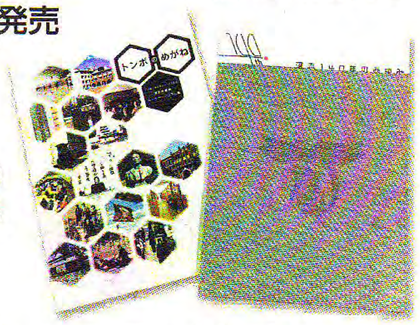
同窓生が蔵元の代表となった県内10蔵の日本酒をセット販売

同窓会名簿の刊行

DVD・ブルーレイ「深志が深志たる所以（仮）」発売

記念出版

▼「トンボのめがね」（左）と「深志140年のあゆみ」



「トンボのめがね」

深志同窓会ホームページで連載している小松芳郎さん（20回卒）、伊藤芳郎さん（21回卒）の2人によるエッセー集。

「深志140年のあゆみ」

明治9年の開校から今日までの歴史を年表でたどる。貴重な資料と古写真も掲載。

ロゴマーク

同窓生、在校生から公募し、下枝弘樹さん（55回卒）のデザインを採用。140thの文字をデフォルメし、トンボが枝に止まって羽を休め、未来を見据えた様子を表現した。

MATSUMOTO FUKASHI ANNIVERSARY

問い合わせ：深志同窓会 ☎39-2081

祝　長野県松本深志高等学校　創立140周年

座談会「自治と自由」

現役生が考える深志とは

1876（明治9）年の開校以来、「自治の精神」をはじめ、培われてきた深志の伝統や校風を現役生は実際どう感じているのか―。生徒会長の塚原裕樹さん（3年）、応援団管理委員会（応管）団長の大野田悟之さん（同）、新生徒会副会長の河野有咲さん（2年）に話し合ってもらった。

伝統受け止め自ら考える 大野田さん

第64代応援団長の大野田さん

個性尊重し合う気風 誇り 河野さん

新生徒会副会長の河野さん

人生の大事な基礎学んだ 塚原さん

生徒会長の塚原さん

―深志高校の良いところ、悪いところは

塚原 個人的に良いと思うのは65分間授業。他校に比べて1コマの時間が長いけれど、逆に内容が濃く、授業に集中できる。悪いところは特にない。ただ、自分の信念を貫く人が多くて、たまに意見が衝突する。

河野 良いところは、みんなそれぞれの個性を尊重し、お互いを認め合っているところかな。他校では、仲間外れとかいじめもあるっていうけれど、深志では聞いたことがない。制服もなく、入学した頃は、その自由さに戸惑った。先生から干渉されることも少ないので、逆に自分たちで考え、行動しないと深志ではやっていけないと感じる。

大野田 勉強も生徒会活動も自分がやりたいことは、割と何でもできてしまうのが深志の良いところ。逆に、何か新しいことを提案すると、必ず反対意見が出てくるのも深志。伝統とか古いものに少しこだわりすぎじゃないかとも思う。

―進学校として勉強と部活、生徒会活動などの両立はできているか？

塚原 自分は生徒会活動に力を入れすぎた。今、勉強を頑張っている。ただ、後悔はしていない。

大野田 人によりけりじゃないかな。

―深志の伝統や歴史について思うことは

大野田 古くて良いものがあれば悪いものもある。逆に新しくても良いものと悪いものがある。古い体制や伝統を見直すとかではなく、そういうものをしっかりとその世代が受け止め、考えていけばいい。

塚原 確かに、時代が移り変わる中、あまり伝統にこだわらなくてもいいかも。保守的にも革新的にもうまく織り交ぜ、その時代に合った校風と伝統を築き上げていけばいい。

河野 私はまだ入学して1年半。そういうことを考えられるのはもっと先かな。

―自分にとって深志とは

大野田 いろんな考えを持った人がいる中で、折衝する方法を学んだ。いろいろ大変だったけれど、年を取ってから深志の良さが分かる気がする。一つ言えることは深志に入学して良かった。

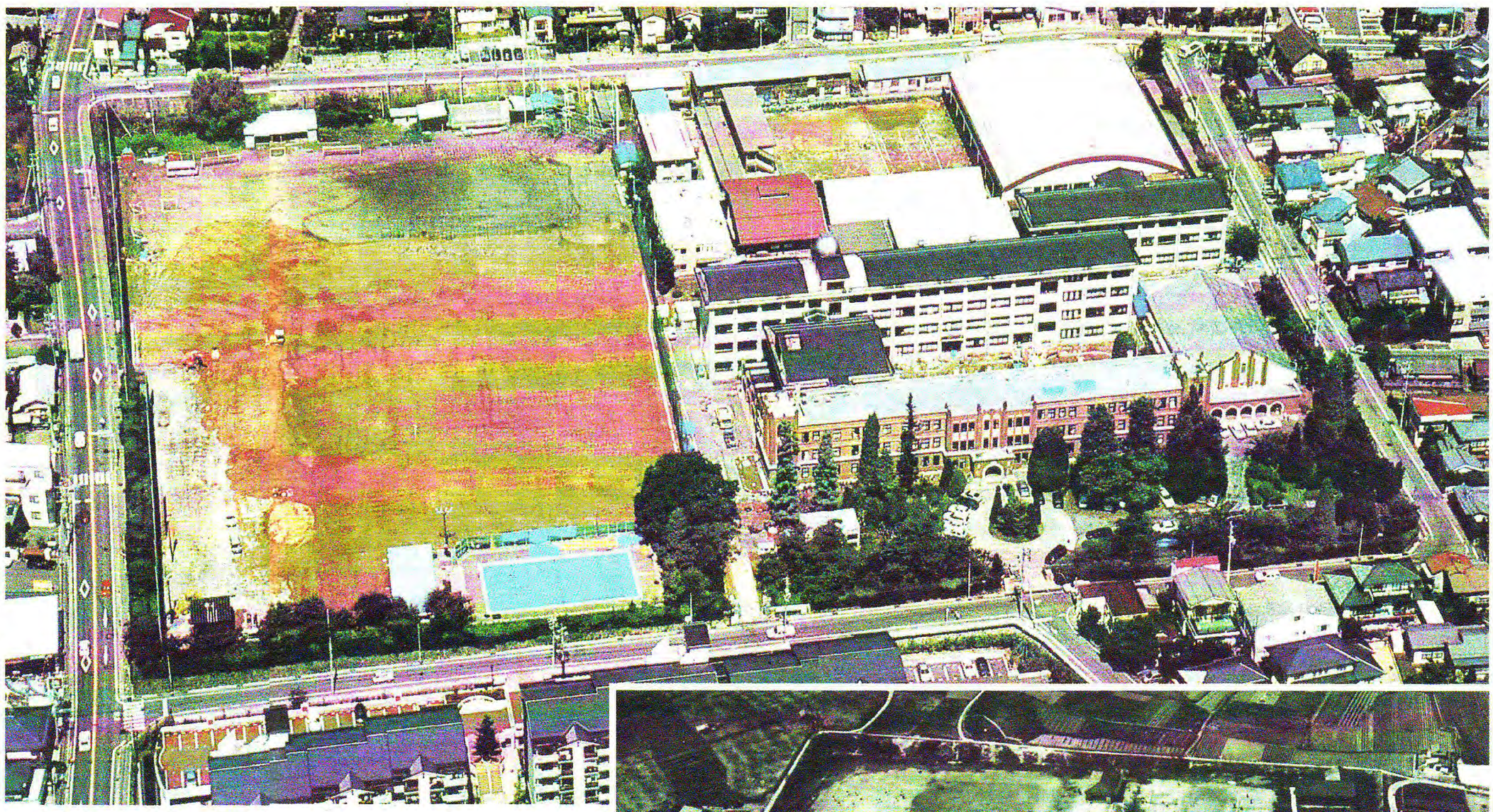
塚原 これから社会に出て行く上で、人生で大事な基礎となることをこの学校で学ばせてもらった。例えるなら「母なる大地」みたいな。

河野 居心地が良い場所。深志出身の両親も高校時代が一番楽しかったと言うように、今しかできない、今しか感じられない思いをしっかり受け止めたい。将来、思い返した時、誇りに思えるような高校生活を送りたい。

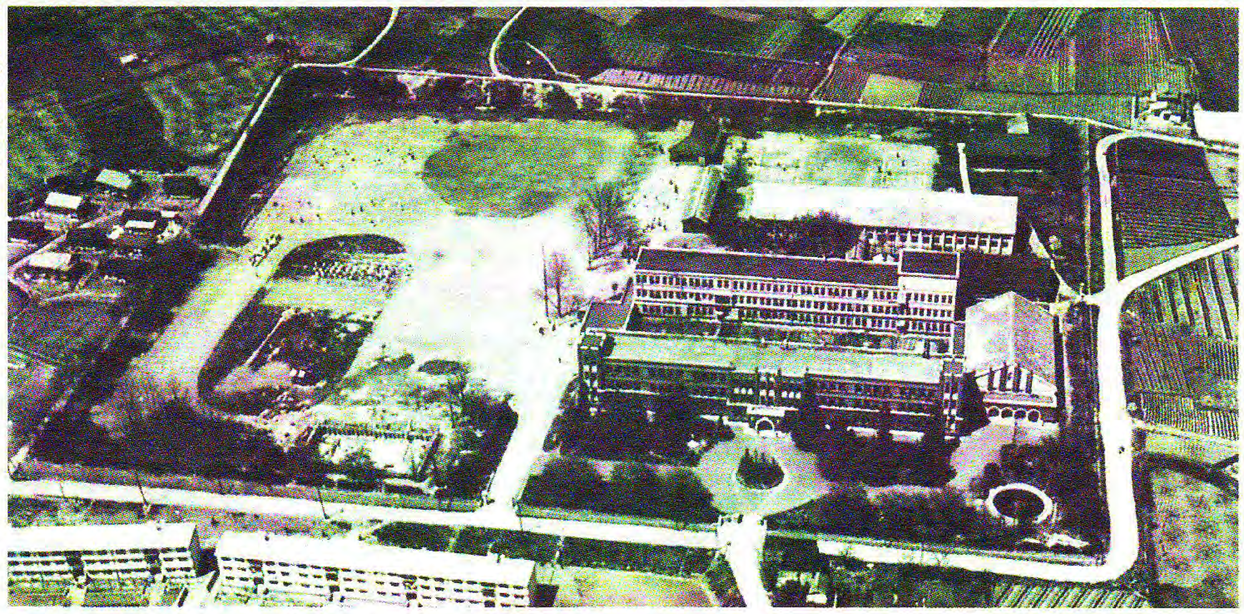
古い歴史資料が並ぶ高校の応接室で語る生徒たち

祝 長野県松本深志高等学校 創立140周年

空から見た学びや



2000（平成12）年11月、第二棟校舎新改築後の風景



1955（昭和30）年頃の校舎全景。周りは畑が広がる

深志応援歌「自治を叫びて」

一、自治を叫びて百年（いっぴゃくねん）
五色の大旗翻し
一千健児の熱血燃えて
城下に轟（とどろ）く闘の声

二、忍辱茲（ここ）に幾星霜
今衡天の意気高し
戦はん哉蜻蛉の健児
勝鬨（かちどき）上ぐるは今なるぞ

祝　長野県松本深志高等学校　創立140周年